

第12回
学術集会大会テーマ「日本の児童養護実践に言葉を与える
—説明概念としてのソーシャルペダゴジー—」

■イアン・ミリガン氏の講演

「ソーシャルペダゴジーのキー・
コンセプト」

10:15～12:00

「ソーシャルペダゴジーの導入経
験から」

13:00～14:20

■会期■

2024年10月5日(土)

10時～17時

(受付:9時30分～)

※午前は、同時に、大阪公立大学の公開講座として開催

■会場■

大阪公立大学中百舌鳥(なかも
ず)キャンパス東大講義室

■シンポジウム 14時30分～17時

「日本の児童養護にソーシャルペタゴ
ジーを根付かせるための戦略」

シンポジスト:

- ニツ山亮(小松島子どもの家):
ソーシャルペダゴジーを日本の施設実践に生か
す—生活と対話のガイド
- 伊藤嘉余子(大阪公立大学):「根拠」と「自信」
の獲得—日本の施設職員研修におけるソーシャル
ペダゴジーからのギフト
- 竹島隆二(飛鳥学院):スコットランドにおける
ソーシャルペダゴジー研修から
- 檜原真也(子供の家):ソーシャルペダゴジーか
ら考える施設養育の新たな挑戦

座長:森 茂起

コメンテーター:イアン・ミリガン氏



イラスト提供 ふわふわ。り



【交通アクセス】

南海高野線「白鷺駅」下車、南西へ約 500m、徒歩約7分

南海高野線「中百舌鳥駅」下車、南東へ約 1,000m、徒歩約13分

日本ソーシャルペダゴジー学会第12回学術集会のご案内

開催趣旨

「日本の児童養護実践に言葉を与える —説明概念としてのソーシャルペダゴジー—」

第12回学術集会は、英国、スコットランドで長くソーシャルペダゴジーの実践、研究、研修に携わってこられたイアン・ミリガン氏が大阪公立大学の招聘事業で来日されるのに合わせ、久しぶりに対面によって開催する運びになりました。

ミリガン氏は、ソーシャルペダゴジーの考え方に基づいた実践家研修を、英国に先駆的に導入し、世界各地で研修を担ってこられました。ソーシャルワークの訓練を受けた施設職員が少なく、早期離職が深刻な問題になっていた英国では、ヨーロッパ大陸発祥のソーシャルペダゴジー実践に注目してドイツやデンマークから専門家を招聘し、職員研修を通してソーシャルペダゴジーの導入・普及を図ってきた経緯があります。その過程で中心的な役割を担ってこられたミリガン氏の活躍は、氏のもとで研修、研究指導を受けた日本の専門家を通して知られ、私たちの学会創立の契機の一つにもなりました。

ソーシャルペダゴジーは理論と実践をつなぐ枠組みを提供します。3つのH、3つのP、3つのゾーン、コモン・サード、そして姿勢、考え方を意味するハルトゥングといったキー・コンセプトが知られていますが、言葉を学ぶだけで実践が変わるわけではありません。新たな概念と言葉で実践を振り返り、また実践から新たな理解を生み出すという作業を繰り返すことではじめて理論が生きたものになります。

本集会では、午前の基調講演で、ソーシャルペダゴジーの基本的考え方と、ソーシャルペダゴジーを新たに実践現場に導入するとはどのような体験なのかをミリガン氏に講じていただきます。そして、午後のシンポジウムで、ミリガン氏のもとで研修を受けた方の報告も合わせ、「日本の児童養護にソーシャルペダゴジーを根付かせるための方法論」をめぐってミリガン氏とともに考えます。

子育てと教育を結び合わせる概念であるソーシャルペダゴジーが、日本における子ども・若者とかがかわる福祉・教育実践にどのような意味を持つか考える機会になればと思っています。多くの関係者のご参加を心から願っています。

共催 大阪公立大学教育福祉研究センター、大阪公立大学教育福祉学類、
日本子ども家庭福祉学会、小舎制養育研究会

- 申込方法: 右記QRコードを読み取り必要事項をご入力ください。
- 申込締切: 9月27日まで(会場の都合で先着300名となります)
- 参加費: 学生無料 ソーシャルペダゴジー学会員、日本子ども家庭福祉学会、小舎制養育研究会の会員は個人会員・団体会員ともに2000円 その他は5000円
- 振込先: ゆうちょ銀行 〇二九店 当座 0105374
- その他不明な点は下記にお問合せください。
大会事務局: 大阪公立大学 伊藤嘉余子 sp12taikai@gmail.com



学会HPからも参加登録できます

左記QRコードを読み取るか、
URLを入力いただき
学会HPへお入りください。
入会もご検討ください。

HPからの参加登録方法

トップページから【第12回学術集会】の案内へとお進みください。